

AICHI STEEL

つくろう、未来を。
つくろう、素材で。

愛知製鋼グループ

2026年3月期 決算説明会

2026年5月7日

愛知製鋼株式会社
取締役副社長 石井直生



- ① 2026年3月期 決算内容
- ② 2027年3月期 業績予想
- ③ 中計アップデートの進捗

- ① 2026年3月期 決算内容
- ② 2027年3月期 業績予想
- ③ 中計アップデートの進捗

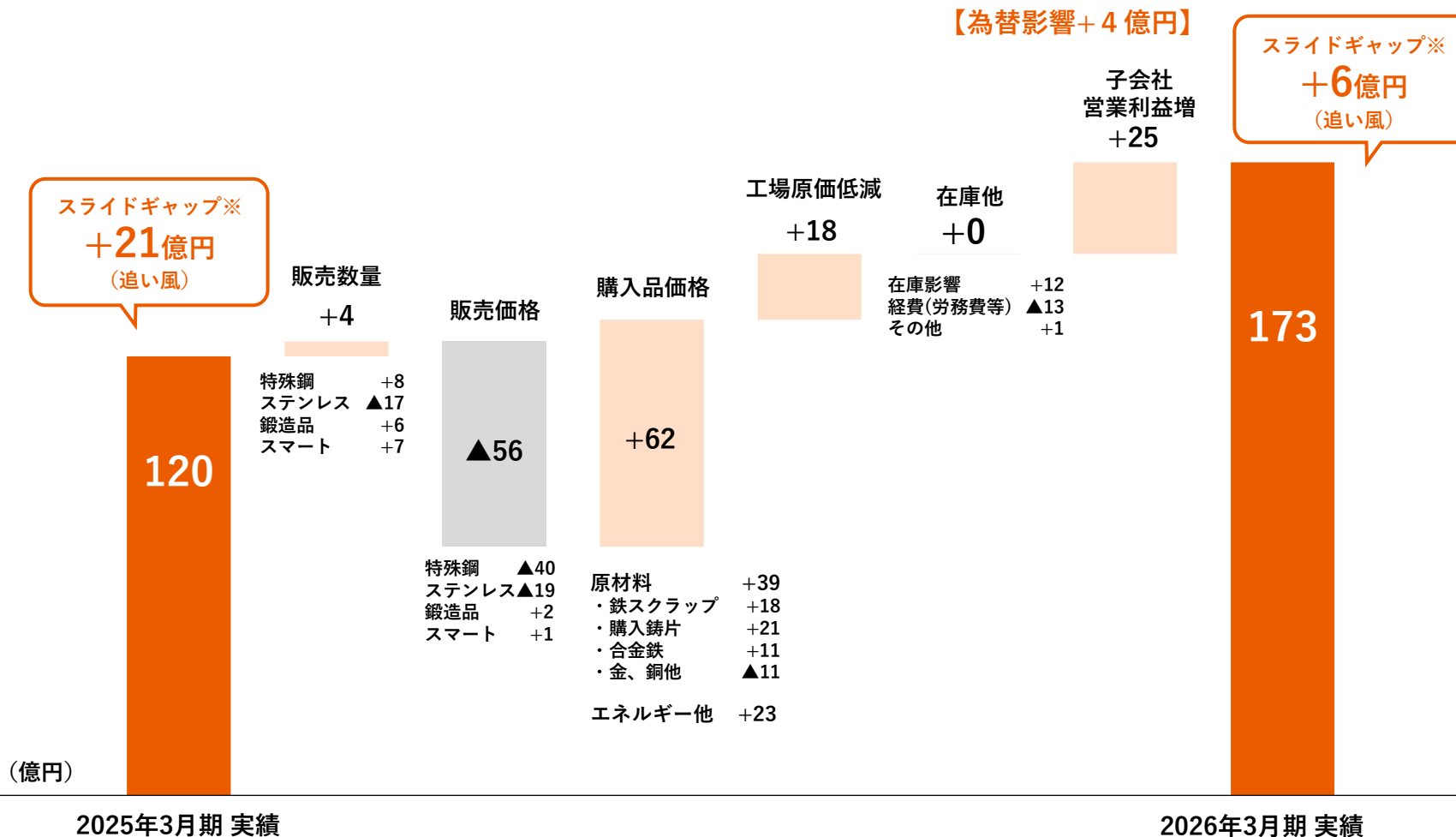
前期比増収増益、売上収益及び営業利益は過去最高

(億円)

		2025年 3月期	2026年 3月期	増減	増減率	既公表値 (2/3)	増減
連結	売上収益	2,992	3,043 (過去最高)	+51	+2%	3,000	+43
	営業利益	120	173 (過去最高)	+53	+45%	150	+23
	親会社の所有者に 帰属する当期利益	78	(*)112	+34	+44%	100	+12
	ROE	3.2%	4.8%	+1.6%	—	—	—
単独	売上数量 (千t)	962	980	+18	+2%	1,000	▲20

(*) バルドマン社の持分法による投資損益3.8億円を含む (25/7~追加出資により持分法適用)

購入品価格の値下がりや工場原価低減、子会社の増益等により前期比増益



※サーチャージ制を導入しているお客様に対して、購入品価格の変動の反映が翌半期、または翌四半期となるために発生する購入品価格と売価前提の価格差のこと

鋼カンパニー：減収、増益

ステンレスカンパニー：減収、減益

鍛カンパニー：増収、増益

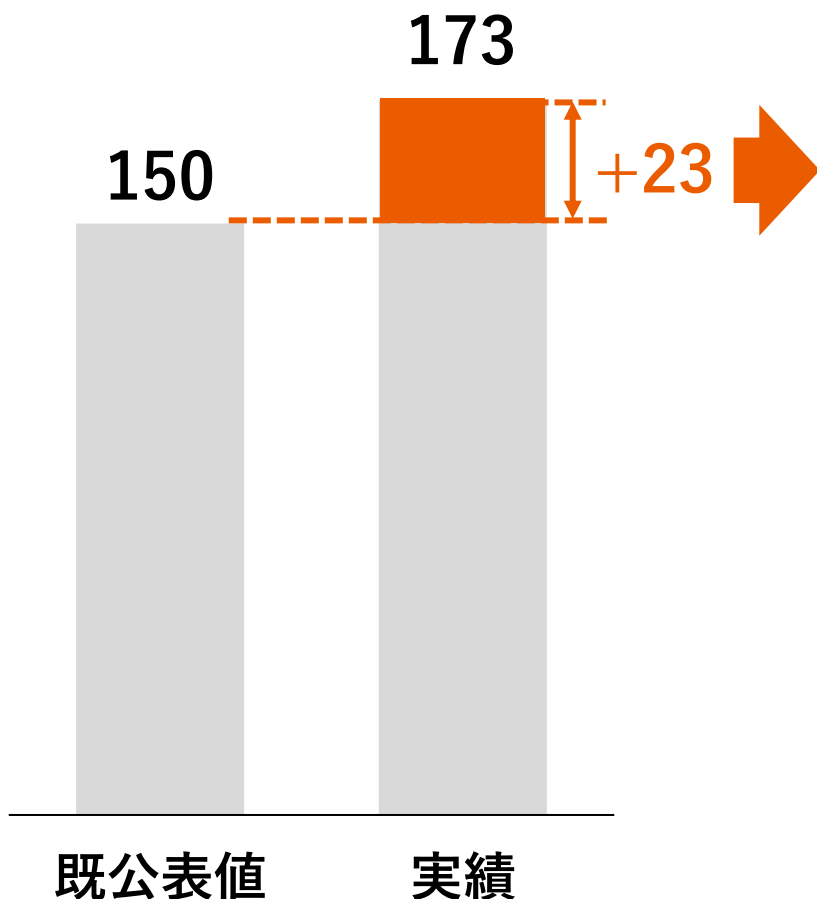
スマートカンパニー：増収、増益

(億円)

	売上収益			営業利益				
	2025年 3月期	2026年 3月期	増減	2025年 3月期	営業 利益率	2026年 3月期	営業 利益率	増減
鋼カンパニー	1,067	1,055	▲12	53	5.0%	81	7.7%	+28
ステンレス カンパニー	440	388	▲52	23	5.3%	4	1.0%	▲19
鍛カンパニー	1,255	1,348	+93	24	2.0%	66	4.9%	+42
スマート カンパニー	205	221	+16	8	4.0%	13	6.2%	+5
その他	23	29	+6	10	43.6%	7	26.8%	▲3
合計	2,992	3,043	+51	120	4.0%	173	5.7%	+53

販売価格の上振れや、海外子会社業績上振れなど

既公表値比営業利益比較（億円）

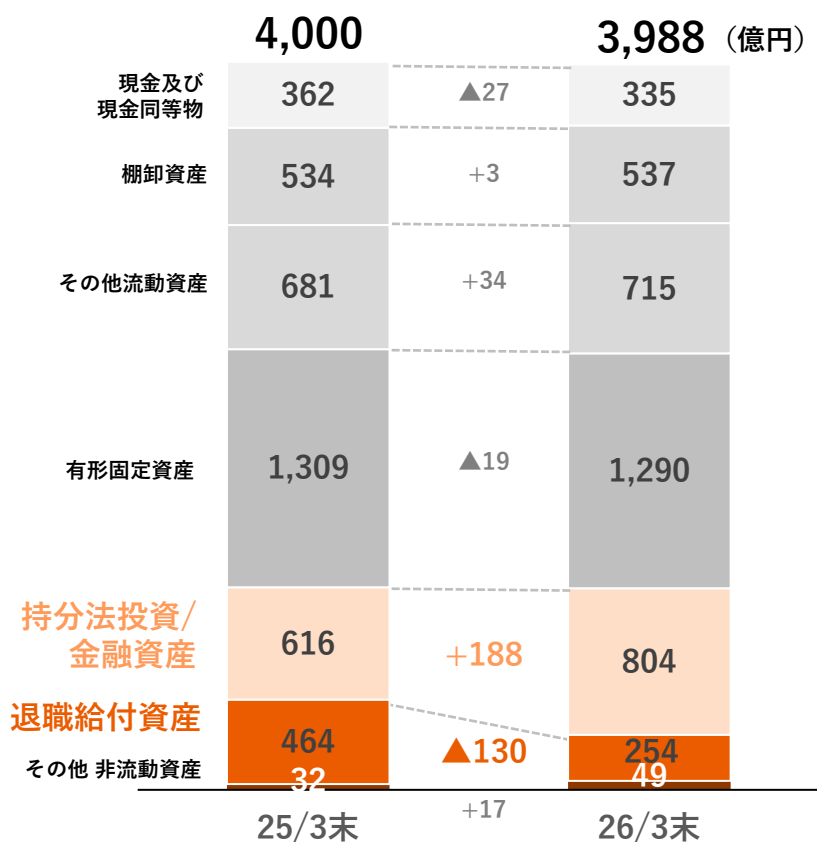


項目	差異	差異の要因
営業面のプラス	+8	品種構成、価格面のプラスなど
購入品価格	▲1	概ね想定内で推移
在庫・原価 他	+7	経費削減など
連結子会社	+9	主に海外子会社の業績上振れ
合計	+23	

保有株式の売却と成長投資・株主還元で引き続き資産効率の向上に取り組む

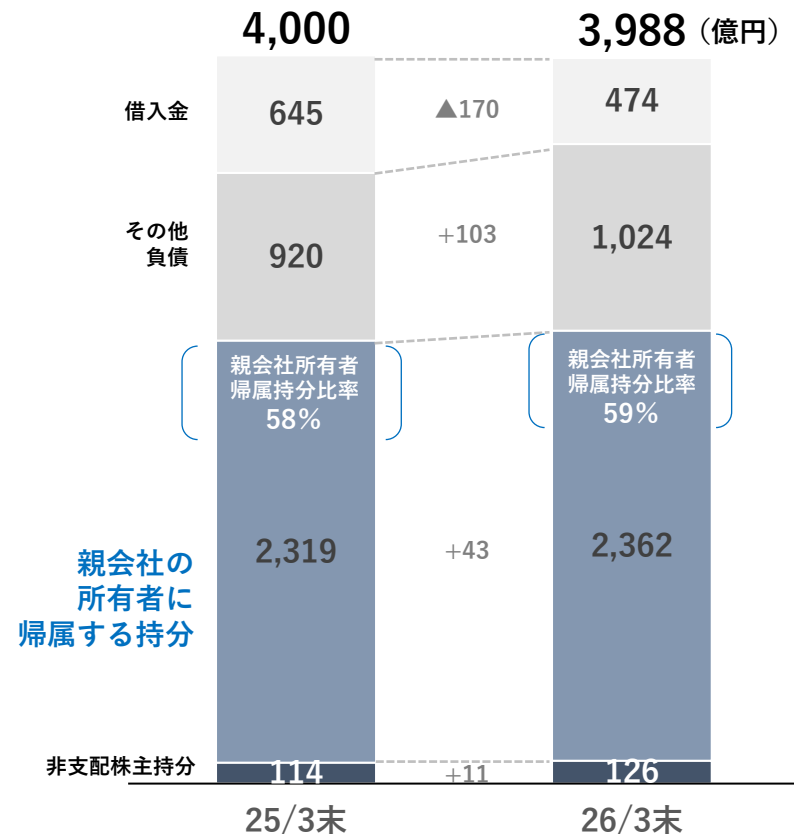
資産

資産：保有株式の売却等により微減



負債・資本

資本：自己株式取得するも横ばい



- ① 2026年3月期 決算内容
- ② 2027年3月期 業績予想
- ③ 中計アップデートの進捗

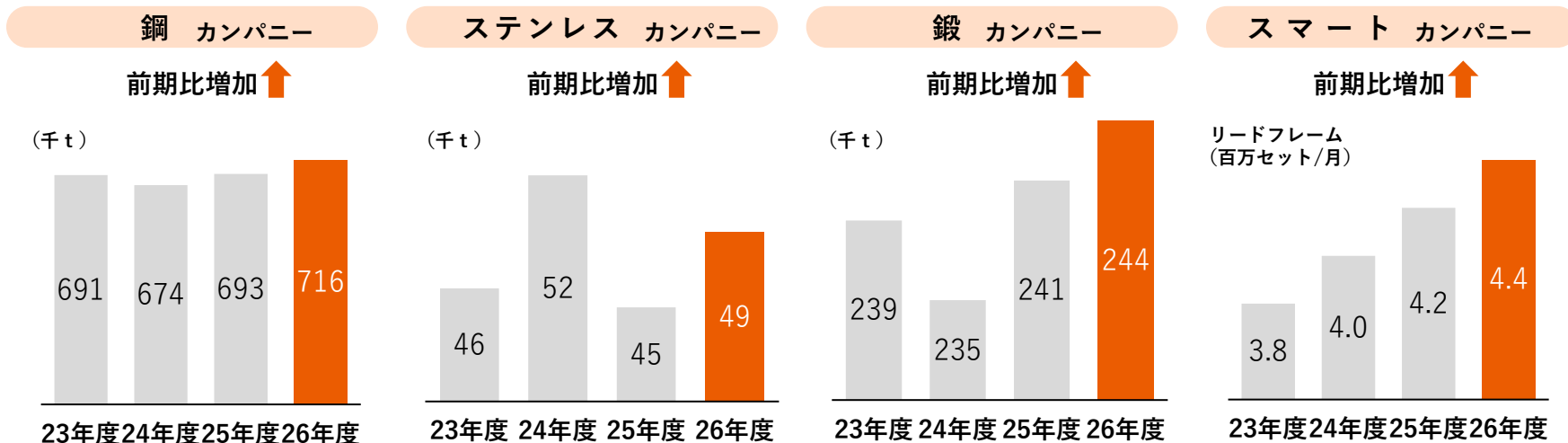
売上収益：3,100億円 営業利益：175億円 当期利益：113億円 を見込む

(イラン情勢等による購入品価格高騰の影響は織り込まず)

(億円)

		2026年3月期	2027年3月期	増減	増減率
連結	売上収益	3,043	3,100	+56	+2%
	営業利益	173	175	+2	+1%
	親会社の所有者に 帰属する当期利益	112	113	+1	+0%
単独	売上数量 (千 t)	980	1,009	+29	+3%

販売数量（単独）



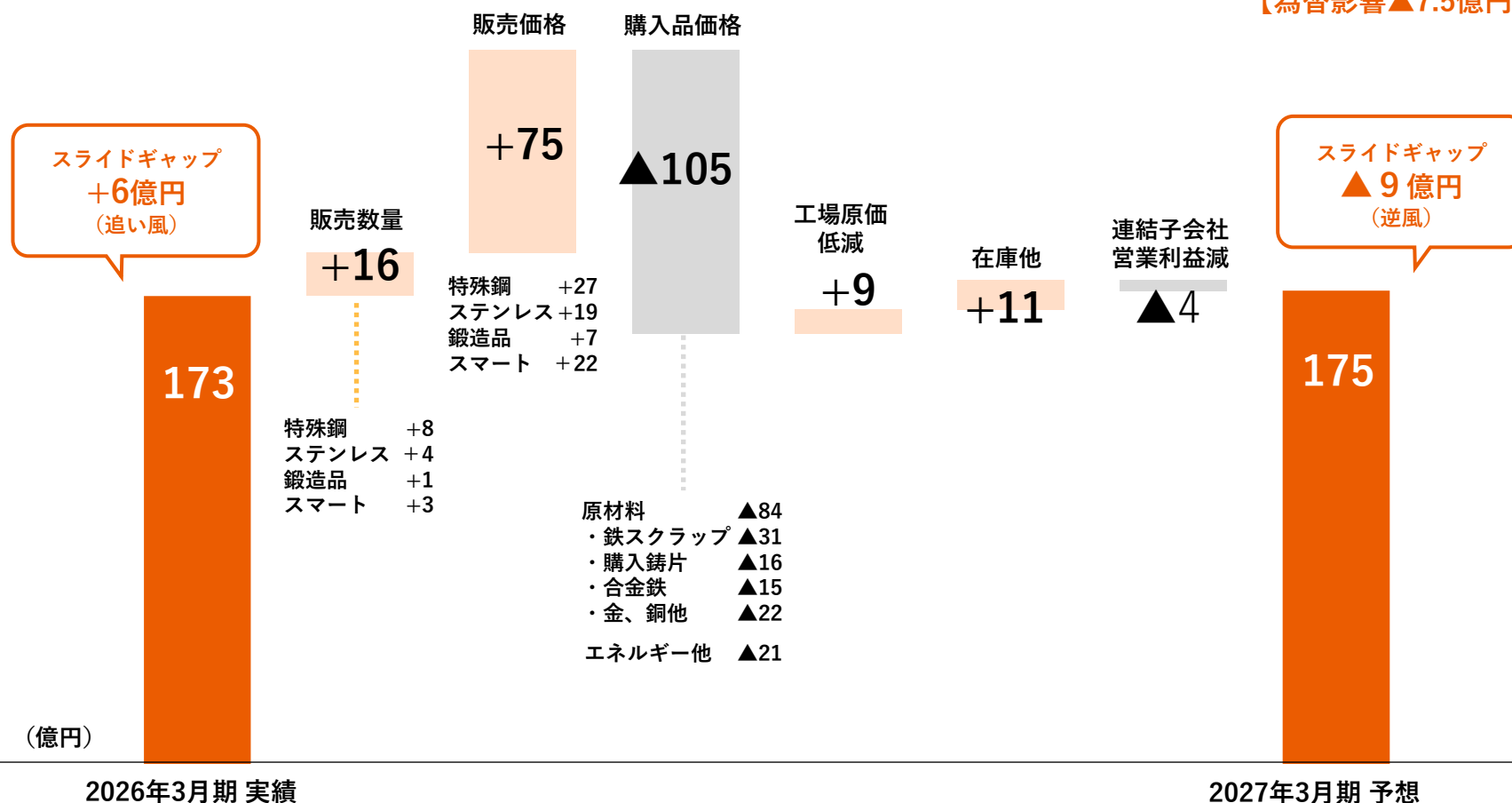
購入品価格

	26年度	参考
鉄スクラップ価格H2 (円/kg)	42.2	25年上：37.6 / 25年下：40.4
購入鋳片	値上がり	原材料価格の強含み
エネルギー	値上がり	電力・ガスとも値上がり
合金鉄	値上がり	主要合金鉄 全品目値上がり (モリブデン、バナジウム、ステンレス屑、ニッケル、クロム)
為替 (USD)	155円	25年度151円 24年度153円

「良品廉価」なモノづくり力を追求し、さらなる上積みを目指す

- 購入品価格の値上がりを見込むものの、販売価格の値上がり、販売数量の増加に加えて原価低減でカバーし、前期比増益を見込む
- 設備投資や研究開発投資も積み増し、2030年ビジョン実現に向け、より強固な足固めの一年に

【為替影響▲7.5億円】

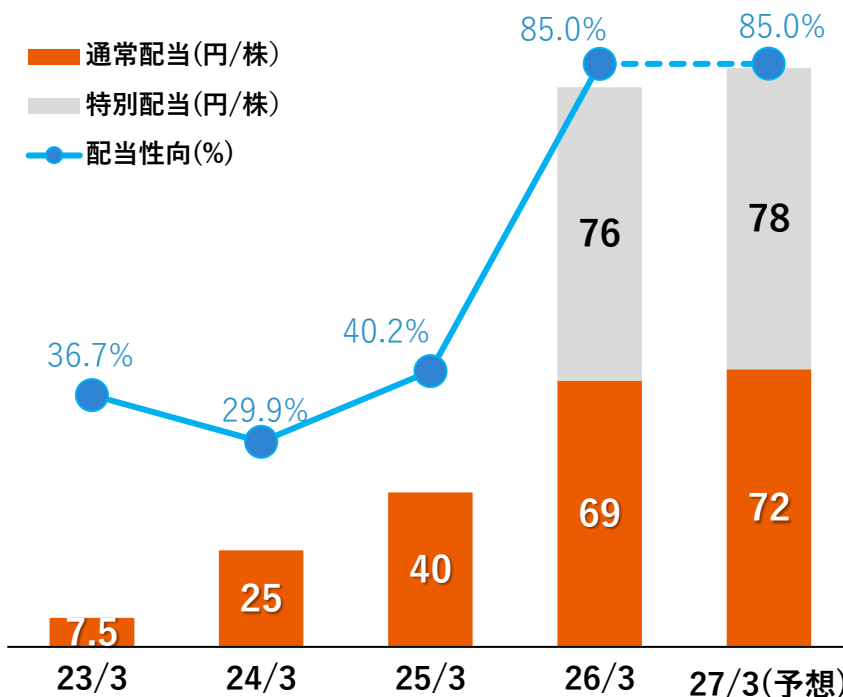


- 2026年3月期は、業績上振れに伴い通常配当を1株当たり通期62円→69円へ増配、特別配当と合わせ通期145円とする
- 2027年3月期は通常配当72円に、特別配当78円を加え、通期150円を予定

当期実績と次期予想

	2026年3月期		2027年3月期	
	中間期	通期	中間期	通期
通常配当	31	69	36	72
特別配当	38	76	39	78
配当金合計	69	145	75	150
配当性向(%)		85.0%		85.0%

過去からの推移



※2025年7月1日を効力発生日として、普通株式1株につき4株の割合で株式分割を行っております。図表内全ての金額について、当該株式分割後の金額を記載しております。






- ① 2026年3月期 決算内容
- ② 2027年3月期 業績予想
- ③ 中計アップデートの進捗**

1. 経営目標の進捗
2. 中期計画アップデートの総括
3. 事業戦略の進捗
4. 財務・資本戦略の進捗
5. 基盤強化の進捗

今後の更なるROEの改善に向け方策を検討

	2023年度	2025年度	現中計 (24~26年度)	2030年度
ROE	2.9%	4.8%	4%以上	8%以上
売上収益 [億円]	2,965	3,043	3,400	4,000
営業利益 [億円]	103	173	150	280
自己資本比率	57%	59%	50%-55%	50%程度
	2023	2025	2026	2030

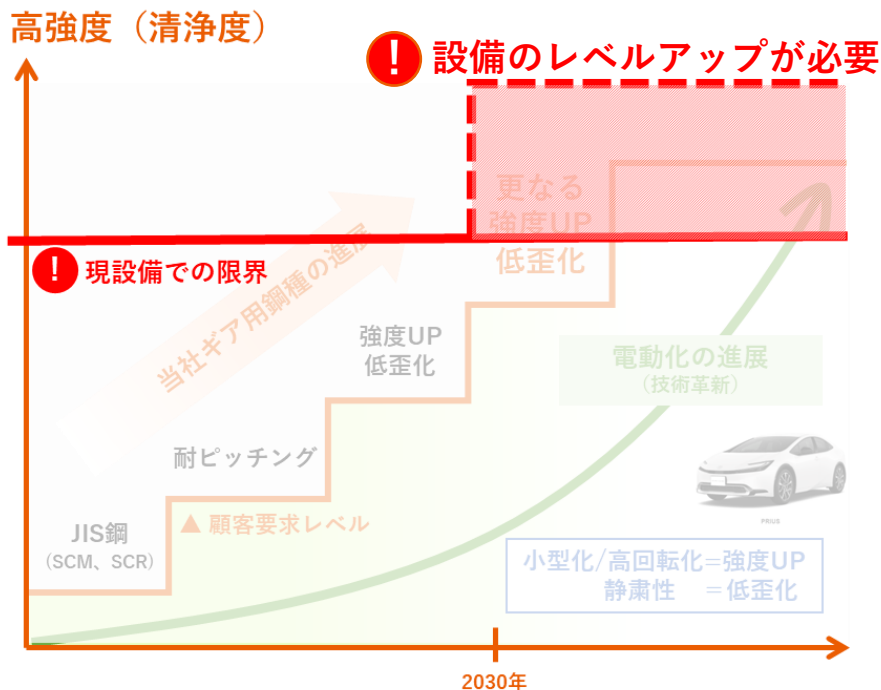
※現中計終了年度（2026年度）は30年度目標実現へのマイルストーン

	中計アップデートの内容	進捗状況	
事業戦略	① マルチパスウェイへの貢献	<ul style="list-style-type: none"> 高付加価値商品の拡大へ新ライン検討 収益性改善に向け設備を統廃合 	
	② 需要地変化への対応	<ul style="list-style-type: none"> インドVSSL*1の持分法適用会社化 鍛造事業進出に両社合意 	
	③ 社会課題へのソリューション提供	<ul style="list-style-type: none"> ステンレス事業は市場低迷で苦戦。内部努力と営業強化などで挽回を図る 電子部品事業は計画どおり進捗も今後の成長スピードが課題 	
資本・財務戦略		<ul style="list-style-type: none"> 計画どおり進捗 	
基盤強化 <ul style="list-style-type: none"> ガバナンス 非財務資本の取り組み 		<ul style="list-style-type: none"> 計画どおり進捗 	

*1. バルドマンスペシャルスチール社 (Vardhman Special Steels Limited)

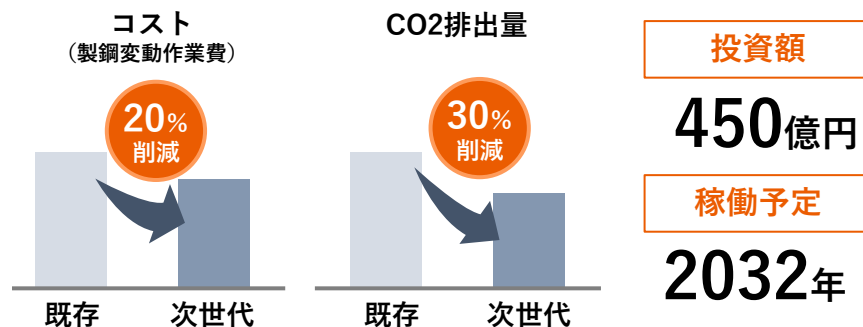
特殊鋼

自動車の電動化に対応すべく、
製鋼ラインの圧倒的な
レベルアップを図る



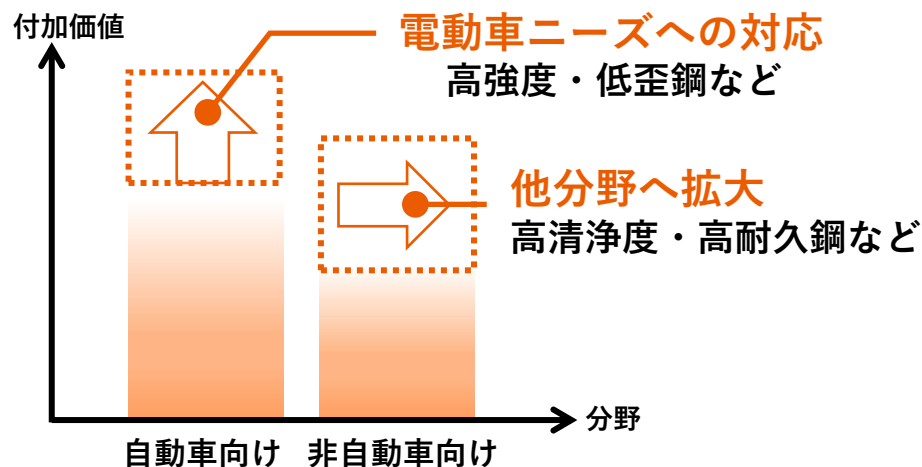
新製鋼ライン

コスト、品質、CNに優れた競争力あるラインを検討中



圧延ラインも老朽設備の更新を契機に強化策を策定中

高付加価値領域への商品展開



鍛造品

設備の集約、統廃合、強化により高効率な生産体制を構築することで「成熟事業」の収益性を高める

最適設備への見直し

部品群	対象動力源	現中期経営計画発表時点	2030年
クランクシャフト 	ICE HEV PHEV	3ライン	3ライン (±0) 維持
デフリング/ドラピン/ 大物ギヤ 	ICE HEV PHEV BEV	20ライン	18ライン (▲2) 集約 強化
OPシャフト/Moシャフト 	BEV	1ライン	1ライン (±0) 維持
リアシャフト/アーム/ プロペラ 	ICE	20ライン	18ライン (▲2) 集約
小物ギヤ/CVTシャフト 	ICEほか	10ライン	6ライン (▲4) 集約

増益効果

目途付け
+ 11 億円/年

+ 15 億円/年
目標総額

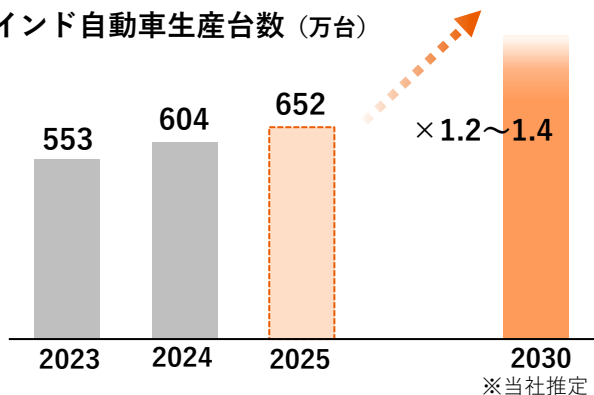
インド進出

VSSLへ追加出資、持分法適用会社化。VSSLの鍛造事業進出に両社合意

鉄資源循環スキーム

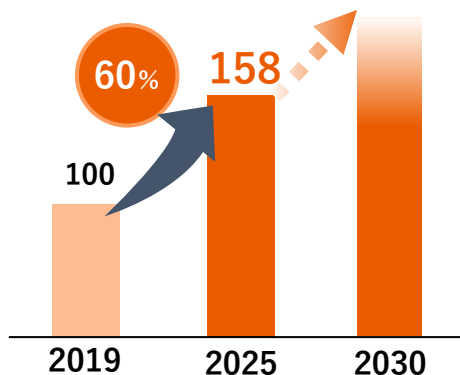


■ インド自動車生産台数 (万台)



鋼材事業の拡大

VSSL鋼材販売数量※



支援拡充と連携強化

- 製品レパートリー拡大・高度化
 - ▶ 日系自動車向け肌焼鋼 (ギヤ用鋼)
- 新工場含む設備導入・性能向上
 - ▶ 新加熱炉、3ロール圧延機など
- 営業力強化 (日系/地場メーカー)

鍛造事業の進出

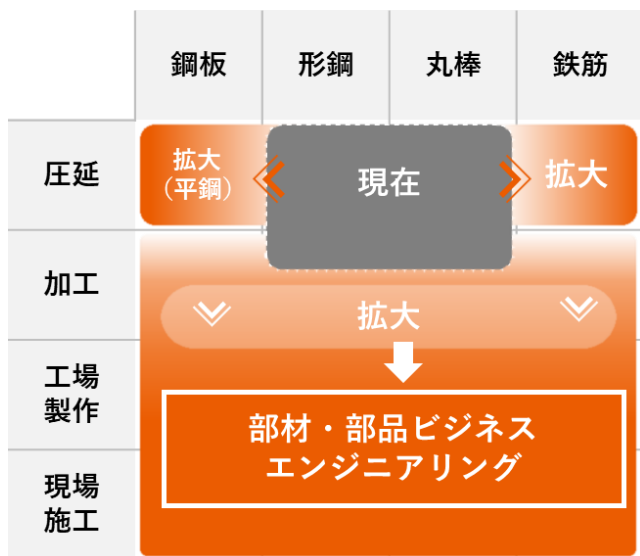
- VSSLへの鍛造技術支援契約締結を決定
- インドでの鍛鋼一貫体制構築への環境が整った
- 技術・知見を投入し高い競争力の発揮により事業拡大を図る

ステンレス

市場が低迷。徹底したコストダウンと新たな需要創出により挽回を図る

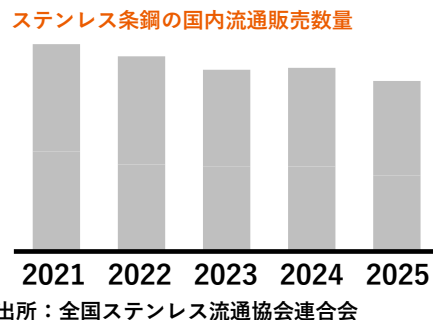
ステンレス事業の戦略

1. 形鋼等のシェア拡大
2. 部材・部品ビジネス拡大



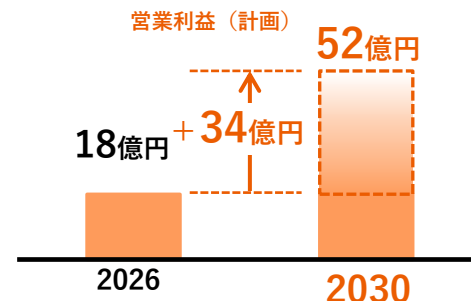
国内需要

- 市場の回復に遅れ



2030年目標に向けて

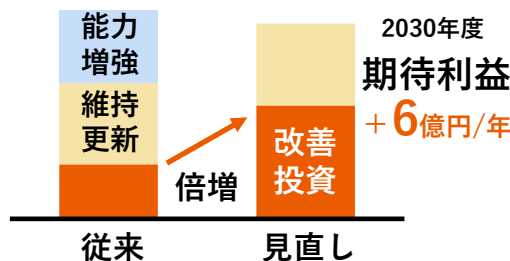
- 内部努力の積上げと先を見据えた営業活動の強化



今後の対応

- 徹底したコストダウンによる収益体質強化
- 新たなステンレス需要の創出

改善投資の積み増し

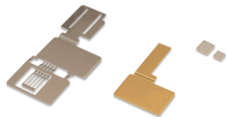








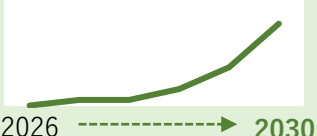


ターゲットとする主な分野

- | | |
|-------|--------------|
| 土木 | 橋梁等の補修/更新/新設 |
| 建築 | 医薬・食品工場 |
| エネルギー | 水素などのプラント関連 |
| 自動車 | FCEV・水素エンジン車 |
| 造船 | LNG運搬船、燃料転換 |

スマート

種まきを着実に実行も成長スピードが最大の課題

事業		成長イメージ	
モビリティ	電子部品		 <ul style="list-style-type: none"> ● 電動車進展に伴うインバータ部品の需要拡大への対応と製品競争力強化
	磁石		 <ul style="list-style-type: none"> ● 耐腐食・低コストの新材料を武器に自動車・家電用品向けへの拡大推進
ソサエティ	センサ・金属繊維		 <ul style="list-style-type: none"> ● 自動運転支援システムGMPSの拡販 ● MIセンサのバッテリー検査への応用
	デンタル		 <ul style="list-style-type: none"> ● 国内における健康保険適用品の販売強化と海外販売網の整備
	鉄供給材		 <ul style="list-style-type: none"> ● カンキツグリーニング病対策・アルカリ土壌の改善対策として海外市場へ投入

目標達成に向け取り組みを強化・加速するとともにバックアップ方策を検討、推進

バックアップ方策

物流改革

- 非効率解消に加え、工場レイアウト再編も視野に物流戦略を策定
- 2030年度までに削減効果として**30億円以上**を目指す

M & A

- 基幹事業のサプライチェーン維持・強化と新事業のスピーディーな成長の実現に向け、検討中

生産設備

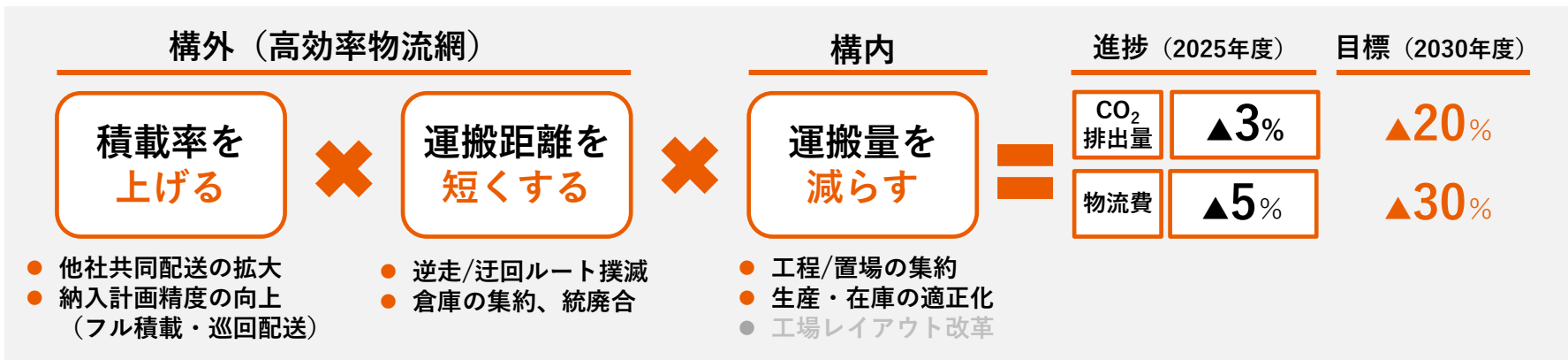
- 多くの基幹設備で老朽化進展。更新による性能向上を計画
- 生産効率の向上と製品ラインナップ拡充により収益拡大を図る

 物流改革

- ムダ・ムラ・ムリを徹底排除した高効率物流網
- 構内物流の整流化、荷待ちさせない
高効率出荷センターの整備

環境と物流ドライバーに優しい
高効率輸送の追求

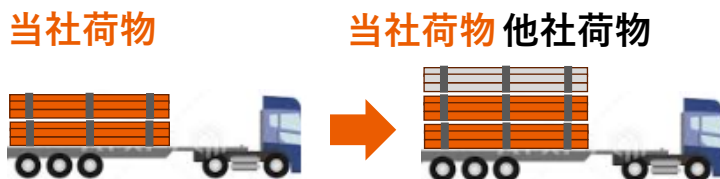
運搬効率2023年比25%以上向上



事例

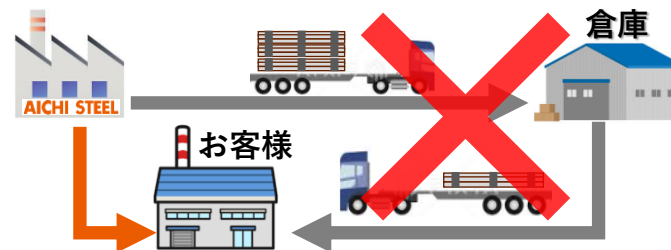
1 他社共同配送

納入候補先を56ルート抽出



2 逆走/迂回ルート撲滅

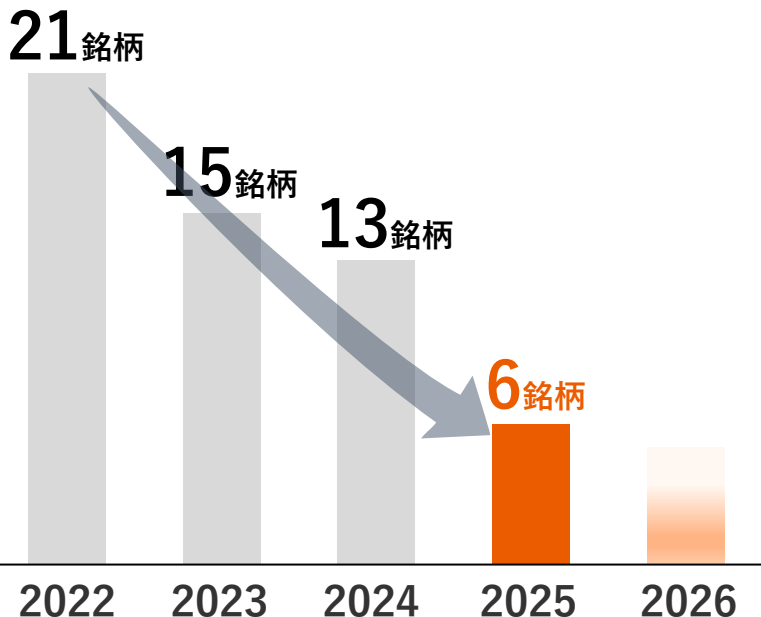
全679ルート中66ルートを抽出、廃止へ



計画どおり進捗。今後もROE目標達成に必要な自己資本コントロールを実施

政策保有株式（上場）

- 2024、2025年度で9銘柄を売却。退職給付資産の株式売却と合わせ、約452億円を創出
- 今後も聖域なく売却を検討



株主還元

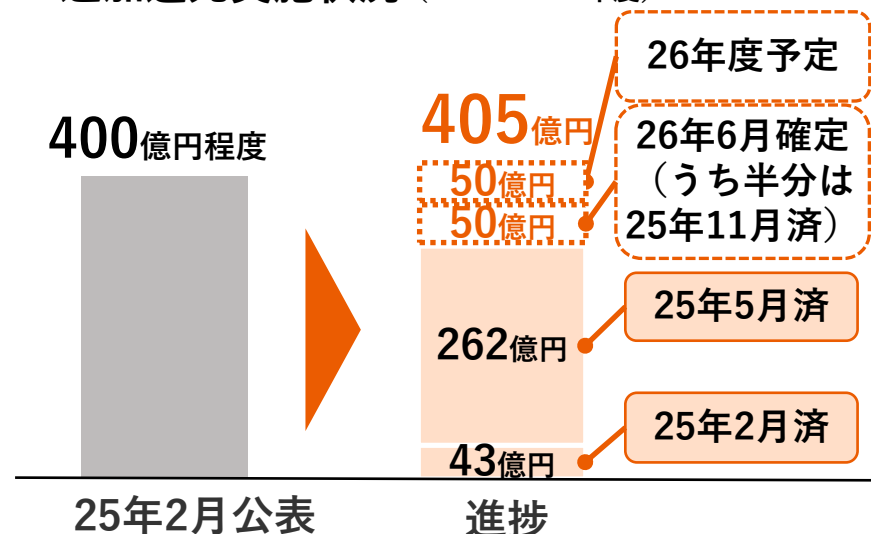
方針

- 配当性向40%以上（継続）
- 資本収益性を意識した機動的な株主還元を実施

還元額
(2025年度)

通常配当	43億円	※2026年6月定時株主総会に提案予定
特別配当	50億円	
自己株式取得	262億円	

追加還元実施状況（2024～2026年度）

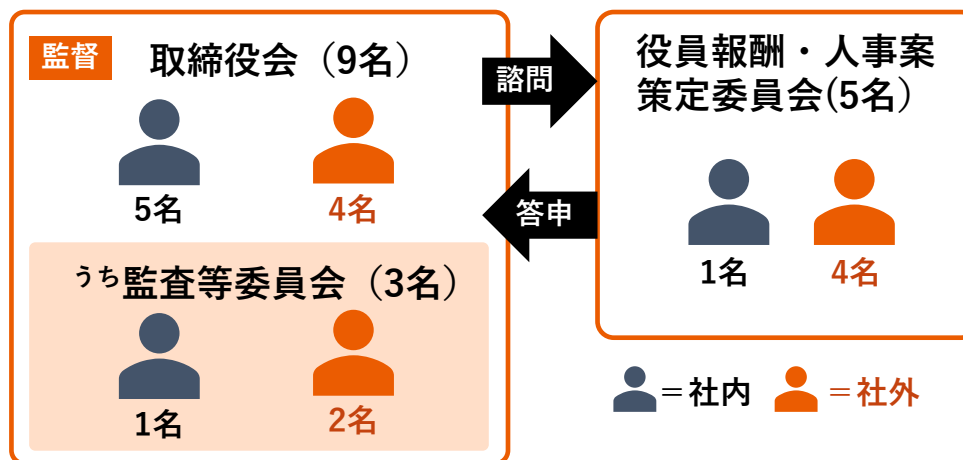


 ガバナンス

取締役会の監督機能の強化および意思決定のスピードアップに向けて
監査等委員会設置会社へ移行*1

*1. 2026年6月開催予定の第122回定時株主総会における承認が条件

● ガバナンス体制



● 新任取締役候補者



小川 恭範 社外 独立

セイコーエプソン株式会社取締役会長
セイコーエプソン株式会社において長年にわたり
企業経営に携わっており、その経歴を通じ、特に
研究開発および事業戦略に関する高い専門性
を保有







宮坂 彰一 社外 独立

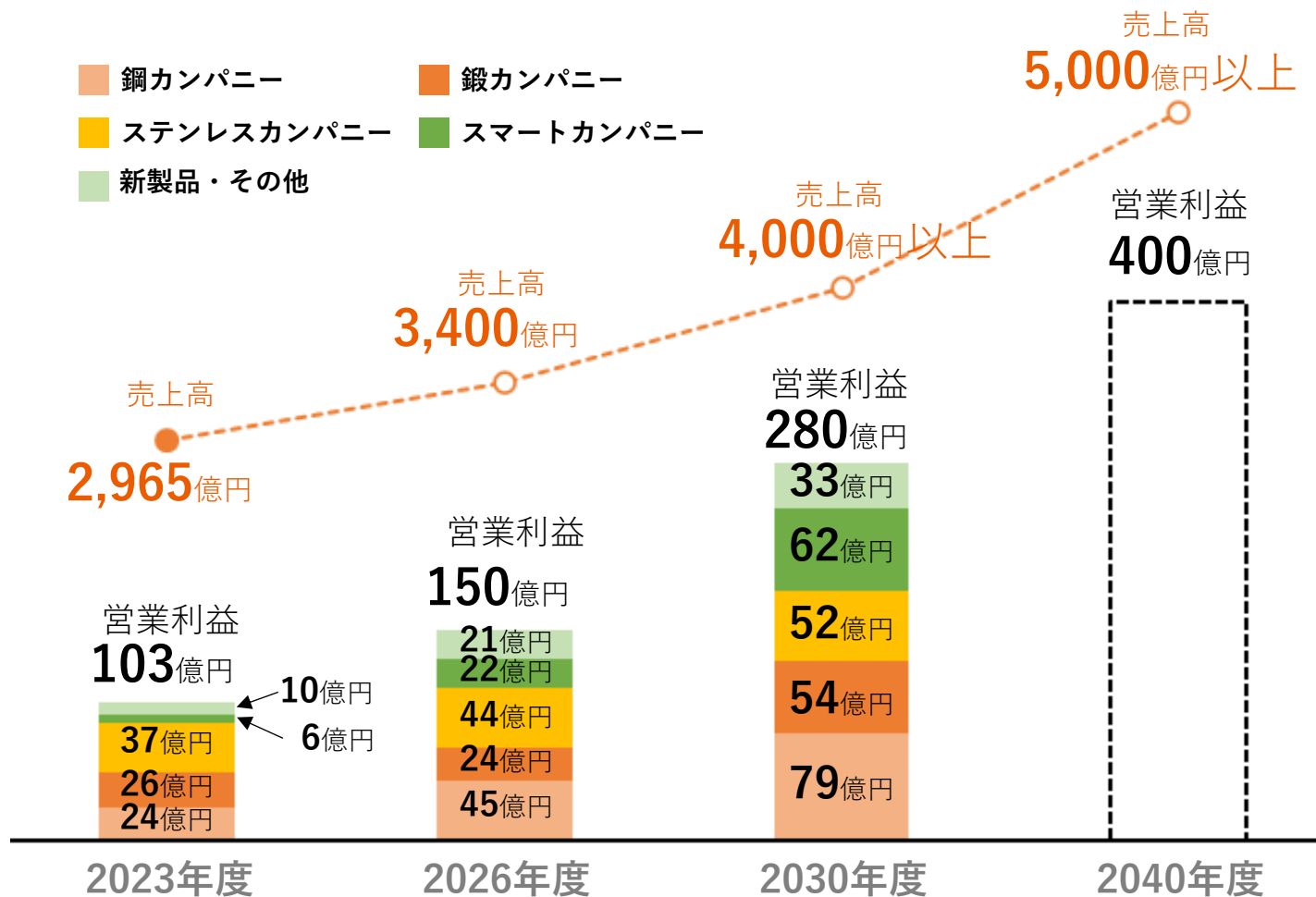
西村あさひ法律事務所・外国法共同事業アドバイザー
野村證券株式会社を経て、コンサルティングファームや投
信投資顧問会社等において、コンサルティングに従事し、
その経歴を通じ、特にガバナンス、財務戦略の分野で高い
専門性を保有

人的資本

自然資本

KPI	2030年目標	2025年進捗	進捗
 <p>健康と安全 休業災害</p>	0件	4件	<ul style="list-style-type: none"> ● 暑熱作業環境の改善投資 <ul style="list-style-type: none"> ・ 工場内の冷房機器増強、熱遮蔽物設置など ・ 熱近傍作業の遠隔化・自動化（作業レス） ● 健康経営の強化 <ul style="list-style-type: none"> ・ 健康経営宣言の開示、推進目標策定など
 <p>人権尊重 人権DD実施率</p>	100%	82%	<ul style="list-style-type: none"> ● 主要取引先への人権DD（継続） <ul style="list-style-type: none"> ・ 個別対話による取り組みの促進 ・ 取引先評価への織り込み
 <p>脱炭素(CN) CO2排出量</p>	▲50% (2013年度比)	▲33%	<ul style="list-style-type: none"> ● 再エネ電力の導入拡大 <ul style="list-style-type: none"> ・ 全電力使用量の20%、CO2削減効果80千t/年 ● グリーン水素の活用 <ul style="list-style-type: none"> ・ 鋼材加熱炉への導入に向け準備開始
 <p>資源循環(CE) 副産物リサイクル率</p>	98%以上	98%	<ul style="list-style-type: none"> ● 製鋼の副産物であるスラグ、ダストのリサイクル拡大

Appendix



(億円)

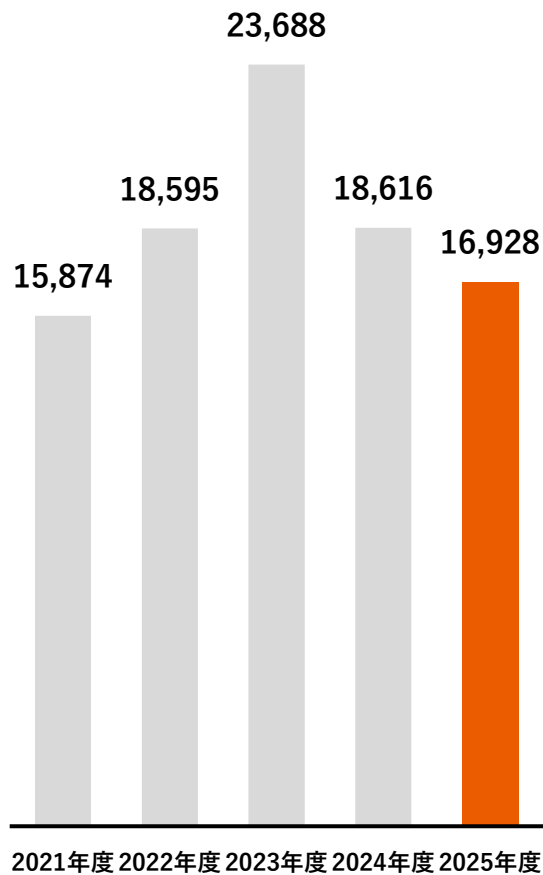
	25年3月期 営業利益	販売 数量	販売 価格	購入品 価格	原価他	連結 子会社	26年3月期 営業利益	備考
鋼カンパニー	53	+8	▲40	+63	▲5	+2	81	販売数量の増加、 購入品価格の値下がりにより増益
ステンレス カンパニー	23	▲17	▲19	+11	+4	+2	4	販売数量の減少、 販売価格の値下がりにより減益
鍛カンパニー	24	+6	+2	▲1	+15	+20	66	販売数量の増加、 子会社営業利益増加により増益
スマート カンパニー	8	+7	+1	▲11	+8	▲0	13	販売数量の増加により増益

(億円)

	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
営業活動による キャッシュフロー	52	130	338	253	650
投資活動による キャッシュフロー	▲155	▲159	▲188	▲179	▲172
フリー キャッシュフロー	▲103	▲29	149	74	477
財務活動による キャッシュフロー	▲119	169	▲162	▲176	▲516
現金及び現金同等物の 増減額	▲212	146	▲9	▲102	▲27
現金及び現金同等物の 期末残高	328	475	465	362	335

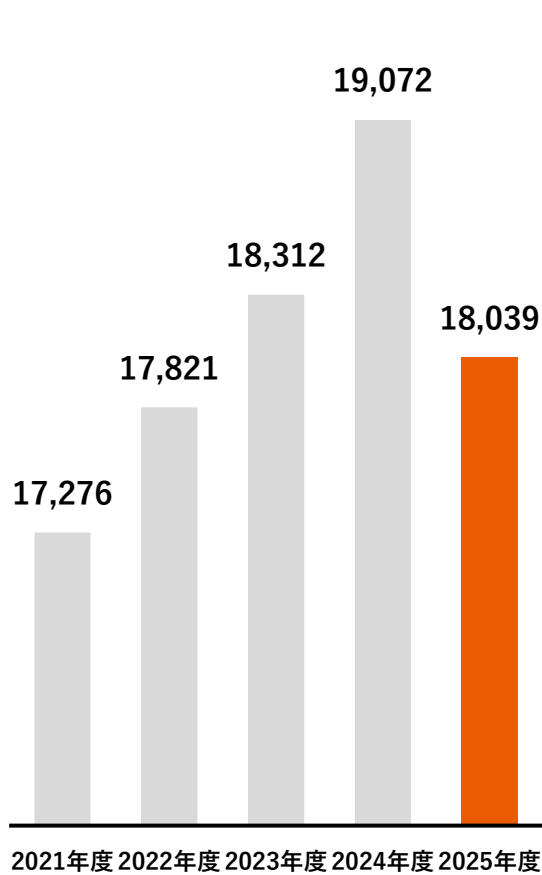
設備投資額

(百万円)



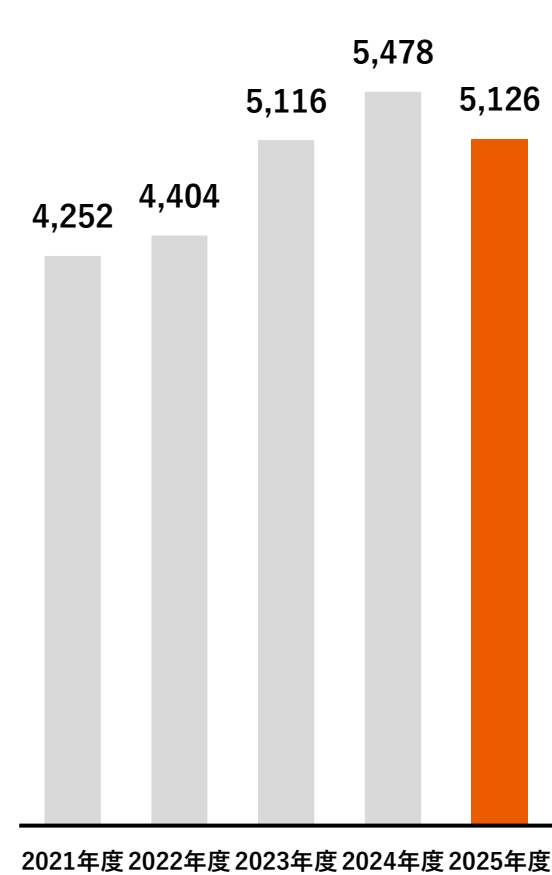
減価償却費

(百万円)



研究開発費

(百万円)



ありがとうございました

愛知製鋼株式会社は本資料もしくは本資料に含まれる情報、ないしはそれに関連して生じるものの利用、誤用あるいは配布から生じるいかなる損失に対して一切の責任を負いません。

本発表において使用した資料に記載されたいわゆる「見通し情報」は、現在における見込み、予測およびリスクを伴う想定に基づくものであり、実質的にこれらの記述とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。それらリスクや不確実性には、業界ならびに市場の状況、金利、通貨為替変動といった一般的な国内および国際的な経済状況が含まれます。

今後、新しい情報・将来の出来事等があった場合であっても、当社は、本発表に含まれる「見通し情報」の更新・修正をおこなう義務を負うものではありません。